



IIPS

第2回中曾根康弘賞授賞者名簿

岸谷美穂 (きしたに みほ) (優秀賞)

年齢：1975年11月6日生れ(30歳) 国籍：日本

所属：NPO 法人ピースウィンズ・ジャパン イラク北部クルド人自治区現地責任者

授賞理由：2000年から3年間にわたり、そのほとんどの期間を唯一の日本人として北部クルド人自治区の上記法人拠点の責任者を務めた。イラク戦争を挟む厳しい状況下において100人以上のクルド人を統括し、インフラ建設、医療支援、母子家庭・戦争孤児支援等の任務を全うした。英国ブラッドフォード大学大学院で紛争解決学を学んだ後日本に帰国、テレビ局のレポーターとして活躍した後、現在もピースウィンズ・ジャパンにおいて国際的人道支援活動を精力的に行っている。その積極的な行動力と豊かな経験において日本のNGO・NPO活動を行う若い世代のリーダー的存在である。

2 伊藤 剛 (いとう つよし) (奨励賞)

年齢：1966年4月4日生れ(40歳) 国籍：日本

所属：明治大学政治経済学部教授

授賞理由：日本の国際政治研究を法則定立的な社会科学とすることを目指し、国際政治の構造的特質の解明をテーマとして研究に努めてきた。特に国家間で生じる「誤認」や「認識の相違」に着目し、その問題を国際システムレベルだけでなく、外交の政策決定過程からの検証も行ってきた。これまで日米中三国間関係を中心として、国際政治の理論的アプローチを援用した水準の高い研究業績をあげてきた。また、国際会議への出席、外国語による研究発表、各種委託研究への参加等を積極的に行っているが、特に英語による単著を刊行していることは、日本人研究者の対外的情報発信として高く評価できる。

3 Pia Bennagen Raquedan (奨励賞)

年齢：1971年3月15日生れ(35歳) 国籍：フィリピン

所属：フィリピン Pulse Asia 社 Deputy Executive Director
フィリピン戦略開発研究所 (ISDS) 研究員

授賞理由：政治プロセス、特に環境問題に関する政策形成過程における市民の関与の重要性を一貫して主張している。開発と安全に関する国際的共同研究への参加や国内外の様々なレベルの環境問題に関する政策形成についての比較研究等も行っているが、これらの研究の中で市民が中心となった開発の重要性を論じ、また、持続可能な発展のためには個人、個人が地域社会や非政府組織において積極的に活動する必要があることを力説している。国内外で注目される論文の発表、国際会議・セミナー等における発表等のほか、世論調査に関する専門家として活動する等、幅広い分野で目覚ましい活躍をしている。

4 Wayan Karja (奨励賞)

年齢：1965年6月11日生れ(41歳) 国籍：インドネシア

職業：インドネシア国立芸術大学デンパサール校(バリ島) ビジュアルアート・デザイン学部長、画家

授賞理由：年少時よりバリ島の伝統絵画を学んだ後、Udayana 大学等で美術を専攻した。その後、米南フロリダ大学タンパ校で教鞭をとる一方、同校で絵画とプリント画法を学び修士号を取得した。絵画に対して常に探究心と学習心を失わず、東洋と西洋、過去と現代の様々な画法に挑み、それらを融合させた独自の画風を確立している。また、国内外において数多くの個展を開催し、画家として高い評価を得ているが、その一方で、自己の知識と技術を伝えるべく、学生に対する指導にも多くの時間とエネルギーを注いでいる。インドネシア美術界における若きリーダーの1人として今後ますますの活躍が期待される。